

第15回福山駅前広場協議会

日時：2026年（令和8年）3月25日（水）13時～15時

場所：福山市役所 本庁舎3階 大会議室

内容

●事務局

本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。これより第15回福山駅前広場協議会を開催いたします。私は本日司会をさせていただきます、福山駅周辺再生推進課の山田と申します。よろしくお願ひいたします。開会にあたりまして、建設局長の市川よりご挨拶申し上げます。

《開会挨拶》

●建設局長

本日は、お忙しい中、第15回福山駅前広場協議会にご出席いただき誠にありがとうございます。前回、2月16日の協議会では、バス乗降場を現在の位置に縮小して配置する整備案を基本に基本計画を作成することを全会一致で確認いただきました。そして、3月23日には、市民説明会を開催し、市民のみなさまにこれまでの取組経過を改めて説明するとともに、整備案の内容について、交通シミュレーションを交えながら詳しくご説明しました。本日は、作成しました「福山駅前広場整備基本計画案」をご説明させていただきます。委員の皆さま方から、基本計画案に対するご意見をいただき、基本計画の策定に向けた検討を進めていきたいと考えております。皆様方の活発なご議論をお願いして、開会の挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願ひいたします。

《座長挨拶》

●清水座長

本日もよろしくお願ひします。今年度の最終回です。みなさん遠慮なく、ご発言いただけると嬉しいです。どうぞよろしくお願ひします。

●事務局

ありがとうございます。続きまして、本日の出席者です。出席者については、お配りしております資料1の出席者名簿により紹介にかえさせていただきます。なお、タクシー協会東部支部の山田様が急遽欠席となりましたので、代わりに富田理事にご出席いただいております。次に本日の進行及び配布資料についてご説明いたします。本日の議題は「福山駅前広場整備基本計画案について」です。次に配布資料についてです。資料1は本日の出席者名簿、資料2は福山駅前広場整備基本計画案です。それではこれより本日の議題であ

る「福山駅前広場整備基本計画案について」に移りたいと思います。この度の会議はライブ配信を行っておりますので、ご発言をされる場合は所属とお名前をおっしゃってください。それでは、ここからの進行は、清水座長にお任せしたいと思います。清水座長よろしくお願ひいたします。

《意見交換》

●清水座長

それでは早速ではありますが、事務局側から説明をお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

●福山駅周辺再生推進課長

福山駅周辺再生推進課の野田です。基本計画案の説明の前に、3月23日に開催した福山駅前広場市民説明会のご報告をさせていただきます。スクリーンをご覧ください。3月23日(月)19時～22時に、福山市立大学小松安弘記念館において開催しました。参加人数は、130人。(現地参加63人、オンライン参加67人)でした。説明内容は、これまでの取組。これは、2018年の福山駅前再生ビジョン策定からこのたびの基本計画案作成までのことです。それから、福山駅前広場整備案について、交通シミュレーションによる検証について、資料や動画を使って、説明しました。その後、質疑応答を行い、交通のことや広場のことなど、ご質問やご意見をいただき、ご説明をしました。市民説明会の報告は以上です。次に基本計画案を説明します。資料2 福山駅前広場整備基本計画案をご覧ください。この基本計画案は、これまで議論いただいた内容を取りまとめたものです。2021年10月から始めた、本協議会の議論だけでなく、分科会、ヒロバラボ、アンケート、シンポジウム、市民対話集会、実証実験などを通じてお聴きした意見を、協議会の議論に反映し、その議論を基に、基本計画案を作成しました。また、交通や広場などの機能配置計画については、前回の協議会で確認いただいた、バス乗降場を現在の位置に縮小配置する案をベースに作成しております。それでは、基本計画案の説明を行います。1頁めくっていただいて、まず、はじめにです。福山の「人の風景」が生まれる駅前となっております。福山駅前は、備後圏域の玄関口であり、多くの人が行き交う本市の顔となる場所です。福山を象徴する福山城やまちを彩るばらといった世界に誇れる風景を感じられる空間であり、通勤・通学、観光、ビジネスなど、様々な目的で人々が訪れ、まちへ歩き出す起点となっております。これからの福山駅前広場は、交通結節点としての機能に加え、人が集い、過ごせる場であるとともに、福山駅周辺とつながりながら、まちの魅力を高める空間であることが求められます。交通の利便性を確保しながら、誰もが安心して過ごせる、心地よく親しみのある駅前空間をめざします。福山駅前広場の再整備は、福山らしい「人の風景」をつくる取組です。このまちを歩きたくなる、このまちで過ごしたくなる、このまちに住みたいと思える、そんな「まちの入口」を実現するための第一歩として、福山駅前広場整備基本計画を位置づけます。次に2枚めく

っていただき、1頁をお願いします。資料の下の方に頁数を表示しています。1. 基本計画の位置づけ(1-1 基本計画の位置づけ)です。資料の中段あたり、3段落目に記載していますが、福山駅前広場整備基本計画は、基本方針を踏まえ、駅前広場の役割と機能を整理し、機能配置計画を定めるものです。なお、具体的な空間デザイン、施設意匠などについては、今後の設計及び管理運営の検討の段階で具体化を図ります。2頁をお願いします。2. 基本方針、2-1 福山駅前広場の問題点と課題解決の方向性です。2章の内容は、2023年に策定した福山駅前広場整備基本方針をベースにしています。ここでは、福山駅周辺や福山駅前広場の問題点を整理したうえで、課題解決の方向性を整理しています。真ん中のところ、駅前広場に関する主な問題点としては、「交差点の形状により歩行者や車両が通行しにくい」、「タクシーやバスの空間が効率的に活用されていない」、「駅舎から南方向への視認性が低い」、「居心地の良い空間になっていない」、「福山ならではの特徴や魅力を感じにくい」などを挙げています。3頁をお願いします。先ほどの問題点に対し、6つの課題解決の方向性を整理しています。①歩行者と車両が安全で快適に移動できる環境整備、②多様な人々と活動を受け入れる居心地の良い空間の創出、③福山ならではの特徴や魅力を生かした空間の形成、④技術の進化や交通需要の変化、多様な利活用を見据えた可変性の確保、⑤多様な主体が活用しやすい広場の運営、⑥多様な情報が集積し、情報の発信や交換ができる環境整備、この6つを課題解決の方向性として掲げています。4頁をお願いします。2-3 将来像です。駅前広場の課題解決の方向性と福山駅周辺デザイン計画に示す福山駅周辺の再生がめざすものを踏まえ、駅前広場の将来像を「あらゆる資源をつなぎ、福山らしい豊かな暮らしを実現する駅前広場」ヒト・モノ・カネ・情報・交通をつなぎ、愛着・誇り・魅力ある駅前広場としています。5頁をお願いします。2-4 利用者目線の価値です。駅前広場の再整備は、「使いやすさ」「過ごしやすさ」「安心感」「福山らしさ」といった利用者目線の価値を大切にしています。6頁をお願いします。3. 駅前広場の役割と機能、3-1 駅前広場の役割です。駅前広場は備後圏域の玄関口として、多様な交通が接続する交通結節点であり、多くの人が行き交い、まちへ歩き出す場所でもあります。こうした多様な人の動きが重なる場所であるからこそ、交通の利便性の確保だけでなく、滞在や交流を支える都市の広場としての役割が必要となります。また、駅前広場は、駅と周辺市街地をつなぎ、人の流れや活動がまちへと広がる起点となる場所です。福山らしい魅力やにぎわいを感じながら、歩いて回遊したくなるウォークアブルなまちづくりを進めるうえでも、その役割は重要です。こうした駅前広場の役割を踏まえ、交通結節機能と都市の広場機能が融合した空間形成を進めることで、人が通過するだけでなく、集い、憩い、まちへ歩き出す福山らしい人の風景が生まれます。そして、駅前の魅力や求心力を高め、人や活動を惹きつけることで、持続的な都市の発展につなげていきます。7頁をお願いします。3-2 駅前広場の機能です。資料の左側のところですが、国が示す指針や手引きでは、駅前広場は、交通結節点としての機能に加え、都市の広場としての役割を担う空間として整理されています。右側のところ、福山駅前広場の機能としては「交通結節機能」「市街地拠点機能」「交流・防災機能」「都市環境形成機能」「サービス機能」

の5つとしています。8頁をお願いします。3-3 空間形成の基本的な考え方です。駅前広場の役割と機能を踏まえ、今後、広場空間を具体化していく上で、大切にすべき基本的な考え方について記載しています。(1) 駅周辺とのつながりを意識した空間づくり。駅前広場単体ではなく、駅と駅周辺とのつながりや連続性を意識し、人の流れや活動が広場から駅周辺へ広がる空間づくりを検討します。回遊したくなるウォーカブルなまちづくりにつながる動線や、駅舎からの視界が広がる空間づくりを検討します。(2) 安全で快適な歩行・滞留環境。広場を行き交う人々が安全に移動できる分かりやすい動線の確保に努めるとともに、待ち時間や滞在時間を快適に過ごせる環境を検討します。(3) 多様な利用を受け入れる空間構成。通行、乗換え、待合、滞在、交流など、多様なニーズに対応できる空間構成を検討します。日常利用とイベント利用の双方に対応できる、柔軟性のある空間づくりを検討します。また災害時にも安全を確保できる空間となるよう検討します。(4) 福山らしさを感じられる景観形成。分科会やふくまちヒロバラボの意見を踏まえ、福山城の遺構やばらなどの地域資源を生かし、福山らしさを感じられる景観形成を検討します。本市の玄関口にふさわしい、印象的で親しみのある空間をめざします。(5) 情報発信と案内に配慮したデザイン。誰もが目的地や交通施設を分かりやすく利用できる案内表示や情報提供について、デジタル技術の活用も視野に検討します。また、都市の玄関口である駅前広場の立地特性を生かし、地域の魅力や資源などの情報の集積や発信・交換ができる環境整備を検討します。(6) 将来の変化に対応しやすい空間づくり。デジタル技術の進化や交通需要の変化、多様な利活用にも柔軟に対応できる空間づくりを検討します。また、環境負荷の低減や維持管理のしやすさにも配慮し、持続可能な空間づくりを検討します。9頁をお願いします。4. 機能配置計画。4-1 機能配置計画です。駅前広場は、「交通結節機能」と「都市の広場機能」のいずれかに偏るのではなく、両方をバランスよく配置し、一体的に機能させることが必要です。この考え方のもと、アンケート調査や実証実験による検証、ヒロバラボや各種団体との意見交換などにより、若者や女性、高齢者や障がい者など多様な視点を踏まえた議論を経て、交通施設や広場空間の配置や規模、駅周辺の道路計画を示す機能配置計画をとりまとめました。10頁をお願いします。4-2 整備図、(1) 全体図です。それぞれの機能配置について、ご説明します。ここでは大まかな機能配置について説明します。まず、広場機能についてです。広場は、福山駅の南側を出てすぐのところ、水色で示していますが、約5,800㎡の広場空間を確保しています。また、その南側のアイネスフクヤマ東側にも、駅前広場から連続した約1,300㎡の広場空間を確保しています。次に交通施設です。路線バスについては、駅前広場の南側、現在の位置に縮小して、乗降場を配置します。オレンジ色のところです。次に、タクシーについては、駅とNEWCASPАの間、五浦釣人像(いづらちようじんぞう)付近にタクシー乗降場を配置します。赤色と青色で表示しているところです。次に、観光用、送迎用の大型バス、中小型バスの送迎場については、北口広場へ配置します。また、大型バス送迎場の一部は郵便局前にも配置します。次に一般車送迎場については、伏見町北側へ新たに配置します。次に自転車については、伏見町北西部に地下式の駐輪場や思いやり駐輪場を、またアイネスフ

クヤマ前に平面式の駐輪場を配置します。11頁をお願いします。(2) 駅前広場拡大図です。こちらで機能配置を詳しくご説明します。旗揚げしている緑色の枠の左側下から、順番にご説明します。まず左下の【②タクシー】福山駅前広場です。タクシー乗降場は五浦釣人像付近へ配置しています。五浦釣人像はタクシー転回場の中央部へ移設します。乗車場が赤色で3バース、降車場が青色で7バースです。乗降場及び主要な歩行動線には雨よけを設けます。乗車場からの車両は、NEWCASPA 東側道路を南方面へ走行できます。降車場からの車両は、基本的に西方面へ走行します。一部の降車場からは南方面にも走行できます。次に、その上の緑の枠【④一般車】西側送迎場です。こちらは、現在と同じ配置で、変わらずご利用いただけます。次にその上、左上の緑の枠、【②タクシー】福山駅北口広場です。北口広場のタクシー乗降場及び待機場は、現在と同じ配置です。ただし、待機場の規模は縮小します。次に真ん中、上の緑の枠、【③大型バス・中小型バス】です。観光用送迎用のバスですが、送迎場は大型バスと中小型バスをまとめて配置でき、駅改札からも近い北口広場へ配置します。大型バスが3バース、中小型バスが7バースです。また、北口広場は必要最小限の整備とします。次に、同じく北口広場内にある【④一般車】北口広場送迎場です。こちらは、現在と同じ配置で、変わらずご利用いただけます。また、混雑緩和のために区画線やカメラの設置など対策を実施します。次に、資料右の一番上の緑枠【④一般車】伏見町北側送迎場です。こちらは、新たに送迎場を伏見町北側へ配置します。11台分を予定しています。それにより、北口広場の一般車送迎場の分散を図ります。次に伏見町の北側【⑤自転車】です。新たに地下式の駐輪場やおもいやり駐輪場を伏見町北西部へ配置しています。この駐輪場の配置はこれで確定するものではなく、規模も含めて広場の詳細な設計と併せて検討していきます。次に駅前広場の南側、【①路線バス】です。緑の枠は、資料の右にあります。路線バスの乗降場は12台分から6台分へ集約し、駅前広場の南側へ配置しています。乗降場は利用者の動線を踏まえ、バスの停車場所を効率的に配置し、乗降場全体の面積を極力小さくします。乗降場及び主要な歩行動線には雨よけを設けます。乗降場内の車路は基準に基づき、大型バスが通行できる幅員とします。バスの待合所は乗降場の北側に配置していますが、本計画で確定するものでなく、今後、広場の詳細な設計と併せて定めます。次に右下の緑の枠です【④一般車】地下送迎場です。こちらは現在と同じ配置で、変わらずご利用いただけます。地下送迎場の出口付近では、北側からの車両の合流が無くなるため、車両の流れがスムーズになります。次に、広場空間です。広場は図の真ん中、水色で示す範囲で約5,800㎡です。具体的な施設は今後、検討していきますが、休憩施設、日陰施設、親水空間施設、防災施設、福山城の遺構やばらを表現する施設などを検討します。NEWCASPA 前のトイレは増設を検討しますが、これは本計画で確定するものではなく、広場の詳細な設計と併せて定めていきます。地下送迎場の階段は、駅改札からの視界を確保するため方向を変更します。広場内の自転車の通行方法は押し歩きを基本とします。次に、道路について、まず、福山駅前交差点です。図の下側、真ん中にある交差点です。駅前大通りを4車線化することで、交差点がコンパクトになり、信号の効率化等により現況と比べて車両の流れがスムーズにな

ることを交通シミュレーションにより確認しています。新たに横断歩道を路線バス乗降場の南側へ設けます。広場南西側から南方面への横断歩道を設けます。これにより、NEWCASPA 前の横断歩道を渡る歩行者を分散し、車両の流れをスムーズにします。次に伏見町北側道路についてです。さんすて福山側の車線に一般車送迎場を配置し、伏見町側の車線に荷捌き車両用の停車帯を設けます。緊急車両が通行できる転回場を設けます。そして、道路空間を活用したイベントが開催できるよう歩車道をフラット化や修景舗装などを行います。北口の混雑解消が図られた場合は、歩行者優先の道路（一方通行化を含む）をめざします。歩道にあるアーケードは撤去します。広場沿いに南へ通過する道路は廃止します。伏見町西側へ許可車両のみが通行可能な歩車共存型の道路を設けます。次に、④NEW CASPA 前道路についてです。幅員は2車線ではなく、相互通行ができる最低限の幅員を確保します。一般車・タクシーともに北方面へ通行できます。タクシーの専用の転回場を設けることで南方面へはタクシーのみ通行できます。歩車道のフラット化によるイベント開催や修景舗装などによるスピード抑制と広場との一体的な空間を形成します。12頁をお願いします。

(3) 駅前大通り拡大図です。旗揚げしている緑の枠の左側上からご説明します。【⑤自転車】です。新たに平面式の駐輪場をアイネスフクヤマ前へ配置します。次に、その下側【②タクシー】です。国道2号北側の駅前大通り沿いに、新たに北方面の乗車場を配置します。次の、その下【②タクシー】待機場は郵便局前へ配置します。待機場から乗車場へのショットガン方式とします。次に、旗揚げの右側上、【②タクシー】です。国道2号北側の駅前大通り沿い、南方面のタクシー乗車場は現在と同じ位置に配置します。次に、その下【③大型バス】送迎場です。修学旅行などの臨時的な利用を想定した大型バスの送迎場は、郵便局前へ3バース配置しています。次に、その下【①路線バス】待機場です。路線バス待機場は郵便局前へ配置します。次に広場空間についてです。アイネスフクヤマ前に約1,300㎡の広場空間を確保します。休憩施設、日陰施設等は、福山駅前広場と一体的に検討します。次に駅前大通りについてです。現在8車線の道路を4車線化し、道路を東側へ配置します。4車線化による車両の混雑は発生しないことを交通シミュレーションにより確認しています。これにより歩行者が地上部を東西に横断することができます。地下駐車場の出入口は、東側を入口に、西側を出口に変更します。これにより、出入車両が車線を跨ぐ必要がないため安全性が向上します。さらに、出口からの宮通り口交差点への流入は、この車線専用の信号により安全に退出できます。駅前大通りの南方面の車線（天満屋の西側のところ）に停車帯を設け、走行車両への影響を抑えます。郵便局前の南から北方面の車線数は、国道2号の南側と同じ車線数で走行に支障はありません。みずほ証券前の南方面の車線数は、現在と同様に走行に支障がないことを交通シミュレーションにより確認しています。歩道の修景や緑地へのばらなどの植栽を検討します。整備図の説明は以上です。次の13頁から15頁は、今、ご説明した内容を記載しています。後ほど、ご覧いただければと思います。16頁をお願いします。4-6施設の規模です。施設の規模については、ご覧のとおりです。右下の概算事業費についてご説明します。2025年の建設単価により算出した概算事業費は約40億円

です。今後の物価変動や施設の詳細検討、新たな施設の設置などにより変動します。また、国の交付金を活用するなど有利な財源の確保に努めます。17頁をお願いします。5. 空間イメージ 5-1 北からの鳥瞰です。17頁から20頁までは、空間イメージを掲載しています。このイメージの内容は、前々回の1月の協議会において、ご説明させていただきましたので、変更点のみご説明させていただきます。変更点は、駅前広場の北東にあったロータリーです。このイメージ図の左下のところです。前回はこちらに、ロータリーが配置してありましたが、ロータリーの配置場所を東側に寄せたため、今回の空間イメージでは広場空間となっています。次の18頁、そして20頁の空間イメージも同様に変更しています。21頁をお願いします。6. 今後について。6-1 スケジュールです。設計は、基本計画策定後、2026年度（令和8年度）～2030年度（令和12年度）に行う予定です。工事は、2027年度（令和9年度）～2033年度（令和15年度）に行う予定です。22頁をお願いします。6-2 広場の管理運営です。周辺道路の設計、工事に並行し、広場の管理運営について、関係者と協議しながら民間活力を活用したスキームの検討を行います。広場工事前に管理運営者を募集するなど、できるだけ早期に管理運営体制を構築し、広場の供用開始後の適切な管理や誰もが使いやすく過ごしやすい広場運営につなげていきます。下の図は、管理運営スキームのイメージを示しています。23頁をお願いします。6-3 交通施設に関する検討です。タクシーや路線バス、送迎バス、一般車送迎場の運用方法などについて、今後も交通事業者と継続的に協議しながら、検討します。次に6-4 広場空間と道路の設計です。6-2「広場の管理運営について」を踏まえながら、基本計画策定後、速やかに道路と広場空間の具体的な設計を進めていきます。次に6-5 駅前広場と連動したまちづくりです。駅前広場の再整備との連動や駅舎とのつながりを念頭に、伏見町をはじめとする駅周辺エリアへの良質な投資の促進に向けて、地権者や事業者などととも将来のまちづくりを検討していきます。次の24頁以降には、参考資料として、協議会の枠組みや構成員、これまでの取組や合意形成のプロセスなど掲載しています。基本計画案の説明は以上です。本日も意見をいただきたいことです。これまで協議会や分科会、ふくまちヒロバラボ、市民対話集会、実証実験などを通じて議論を重ねてまいりました。基本計画案は、そうした議論の積み重ねにより、駅前広場の役割と機能を整理し、機能配置計画をまとめたものです。本日は、基本計画案の記載内容（駅前広場の役割と機能など）について、ご意見をいただきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

●清水座長

どうもありがとうございます。これまで相当数の会議を重ねています。本日も更に付け加えてご意見のある方は挙手をお願いしたいと思います。

●福山市身体障害者団体連合会

先ほど説明をしていただきましたが、図面がよく見えないので質問させていただきます

す。まわローズの停留所はどのようなのでしょうか。

●福山駅周辺再生推進課長

基本計画案の11頁をご覧ください。北口広場にあるまわローズの乗降場については、北口広場に残すように計画しています。

●福山市商店街振興組合連合会

非常によくまとめておられるなと思っています。これまで何度も協議会を重ね、色々なところでの意見も聴き取ってこられている。一昨日の市民説明会にも参加させていただきましたが、そこで出ていた意見もそうですが、やはり皆さんの福山を愛しているんだなというようなことを実感しておりますし、これまでの協議会の意見もほとんどパーフェクトに近いようにまとめておられるなと感じています。記載内容について、私が感じたことを述べさせていただきます。最初のイメージが非常に強い。福山らしさ、人の風景、まちの入り口ということの中で、福山の特徴である福山城とかばらを想定したイメージを加えた方が、皆さんに受け入れられやすいのではないかと思います。もう少し、お城との一体感のイメージが強い方が、この基本計画を作成する上においては、訴えるものがあると思います。同時に、中央公園には屋根がないが、駅前広場のイメージ図の屋根はインパクトが非常に強い。市民説明会でも意見が出たのですが、やはり緑の空間が広がり、そして、福山の玄関らしさというところかというと、屋根のインパクトが強すぎるのではないかという気がしています。また、一般送迎場を設けることについては、暫定的な要素もあると思いますが、さんすてと伏見町間の道路は周辺との回遊性を考えると重要な場所であると考えています。15頁に「歩道にあるアーケードは撤去します」と書いてありますが、これについては、私も撤去して、すっきりさせた方が良いと思います。さんすて南側の道路はフラット化をして、イベント活用にも対応できるという説明をなされていますけれど、道路のフラット化についても記載しておいた方が分かりやすいと思います。一般送迎場ですから、歩道を歩く際、植栽の隆起などがあって、歩きにくい状態になってはいけませんので、フラット化の記載を追加していただければという気がしました。最後に、今後のスケジュールが記載されていますが、基本計画案は大体いつくらいに完成予定なのか。お答えできるなら教えていただきたいと思っています。

●福山駅周辺再生推進部長

様々なご意見いただきましたとともに、計画案に評価をいただきましてありがとうございます。ご意見いただいた中で、イメージ図についてのご意見もありました。今後、広場の具体的な設計などを進めてまいります。その中でも、福山城、ばらといったものは十分に配慮しながら議論を進めていって、また新たなイメージなどを示していければと思っています。それから屋根のイメージ、インパクトがあるということで評価いただいたと思っています。こちらにつきましては、イメージとして作成しております。今後、実際に施設

を計画していくの中で、ご意見をいただきながら、また構造的なことも含めて実際にできるのか、あるいは、他の施設との関わりで多少今のイメージと違うようなことにもなるかもしれませんが、そのあたりも含めて、皆様にも情報提供しながら、進めていきたいと思えます。それから、伏見町とさんすての間のお話がございました。こちらにつきましては、さんすてとの連携のあたり、例えば15頁の③伏見町北側道路5点目に「道路空間を活用したイベントが開催できるよう」と記載しています。今後、伏見町の皆さまとも意見交換を重ねながら、まちづくりの機運や土地利用の更新も見据えつつ、どのようなまちづくりを進めていくのかを検討していきます。その過程で、伏見町とさんすてが連携して取り組むことが可能となれば、その際には、両者をつなぐこの道路の活用も視野に入れられると考えています。そうした連携が生まれた際に使いやすい空間となるよう、歩道のフラット化や修景舗装などについても、検討していきたいと思っています。それから最後にご質問がありました、今後のスケジュールでございます。今日こういった形で基本計画案ということで、まとめさせていただきました。本日ご議論いただき、議会にもこれを提示して、4月頃にはパブリックコメントのような形で、市民の皆様にも提示をしてご意見をいただきたいと思っております。通常、パブリックコメントは1か月くらいの期間を設けているので、意見を取りまとめて、この基本計画案に反映させ、基本計画を策定していきたいと考えています。

●福山市商店街振興組合連合会

屋根については、ちょっと圧迫感があるという意味です。これは感性が色々あると思えますので、これでいいんだと言われることもあるでしょう。私は圧迫感があると感じました。これで決定ということではなく、管理運営を委ねたり、こういった使い方ができるのか、遺構の生かし方などがあるので、そういうことが今後続いていくと分かるように示してもらいたい。

●福山駅周辺再生推進部長

失礼しました。この基本計画案ですが、交通施設を含めた図面の部分については、ご議論いただいて、この協議会でこの方向性でまとまったと思っております。配置や規模は合意を得たと思っております。ただ、水色で塗っている広場空間については、今後、議論が必要な部分だと思います。今後、具体的な設計などにも入ってまいります。周辺道路の設計と合わせて、様々な方のご意見をいただきながら、広場空間の具体化をしていきたいと思えます。その時には、屋根に対する意見も色々いただくかと思えますので、そういったことも踏まえて、検討してまいりたいと思っております。そのあたりにつきましては、基本計画案にそういう意味合いを含めて記載していますので、よろしくお願ひいたします。

●伏見町町内会

計画についてはこれで問題ありません。ありがとうございます。私が言いたいのは観光についてです。先日、福山に遊びに来た知人にどこに行きたいのかと聞いたら、福山でも鞆でもなく、上下町だった。スマートフォンで調べていったらしい。観光のやり方が変わっていることに驚いています。以上です。

●三之丸町町内会

市民説明会に参加されていた一人の女性が、福山らしさがないという発言をされています。福山らしさはやはりお城だという方が数名いらっしゃった。福山城の二重櫓や石垣は素晴らしいものであるため、ぜひ地表に出して作っていただきたい。過去に試掘調査をしているが、あれだけの調査をしても結論が出ていない。恐らく、今後、図面とか正確なものが出てこないと思うので、そうすると将来にわたって、復元できないということになる。2033年までに広場空間の設計をするというのであれば、やる気になれば、福山らしさについて十分に検討できると思います。この計画にはそれが入っていない。この機会にやっていただきたい。

●福山駅周辺再生推進部長

これまでの議論の中でも、福山城の遺構を生かした空間づくりということが、大きな視点として出ています。基本方針の課題解決の3点目では、福山ならではの特徴や魅力を生かした空間の形成ということで、福山城の遺構を生かした空間づくりによって、市民が誇りに思える駅前広場をめざしていこうということを示しています。具体的な検討については、資料の33頁に専門家の方々にも加わっていただいて、調査の状況も含めて、ご議論いただきました。現時点では史実が整っていないので、この整備の中で、「二重櫓の復元はなかなか難しい」「中途半端なことはすべきじゃない」「ただ、可能性を潰してしまうのではなく、史実が全て整った時には整理できるような柔軟な整備を進めていくべきだ」というご意見をいただきました。経過を33頁の方に記載した上で、8頁には、空間形成の基本的な考え方を示しています。具体的な整備は、今後の議論によりますが、福山らしさを感じられる景観形成をしていくことを示しています。これをよりどころに駅の南側でも福山城が感じられる、整備後に史実が揃えば、その後の整備にも結び付けられるような計画にしていきたいと考えております。

●福山市バス交通利用促進協議会

23頁に今後検討していただけるということに記載していただきましてありがとうございます。その上で、お願いとして申し上げます。現在の12バースから6バースに縮小すると、交通の利便性が低下していきます。計画の中では、交通の利便性が重要視されていますが、バース数を縮小すると、利便性・安全性・運用性が現在より確実に低下してしまいます。計画で掲げている理念と矛盾してしまうのではないかと考えております。そうい

った中で、6 バースではなく、8 バースを要すると感じております。また将来的な要請に備えて、拡張可能な設計していただければと思います。先日の市民説明会の中で、イベントの時にどうしますかという質問に対して、臨時バースを使いますという回答をされていましたが、どうしてもターミナル内を横断するということになります。例えば、花火大会では、長い行列ができます。とてもバスが通れるような状況ではございません。ですから、例えば、臨時の時には、共有できるようなスペースづくりをしていただければと思います。福山駅周辺を魅力的な空間にしていくことには賛同していますが、今の価値を支えていくためには、公共交通の使いやすさ、乗り継ぎやすさも必要と思っております。そういう利便性が損なわれると、魅力や価値も下がってしまうことになってしまいますので、市民生活に直結する路線バスの利便性確保のためにも、バースの増設や将来の調整の確保といったものを、改めてお願いできればと思います。

●福山駅周辺再生推進部長

ご意見ありがとうございます。イベント時の対応については、運用の仕方について、今後も引き続き、協議してまいりたいと思っております。駅前広場や駅前大通りのスペースあるいは、周辺の道路を含めて、拡張性、可変性そういったものも可能なかどうか、協議していきたいと思っております。

●広島県バス協会

今回のこの案を完全に最終案にするのではなく、柔軟な発想を持って、市民の皆さんや関係者、専門家のご意見、これを引き続き丁寧に聴き取った上で、さらにブラッシュアップさせていくことがやはり重要ではないかと考えております。我々、バス事業者としましては、6 バース+ α を大事にしたいと思っております。市の皆様と一緒に交通シミュレーションであるとか実証実験を通じて、これを実現するための仕組みづくり、運用方法、乗合バス乗降場の形状などについて、詳細に検討していかなければいけないと思っております。また、郵便局の前の待機場についても同様でございまして、乗り合いバスの乗降場から、待機場までのルートであるとか、周辺交通に及ぼす影響を少し慎重に考える必要があると考えております。市役所の皆様におかれましては、引き続きご支援をいただきまして、あわせて道路の位置の指定、変更であるとか、通行規制であるとか、また前も言いましたが、PTPS（公共車両優先システム）等、国や県や警察などと調整をお願いしたいと思っております。それから+ α というのは、降車場確保の問題や多忙日の乗客が増えている問題、福山みらい創造ビジョンのバス利用者を2030年までに20%増加させようという目標に基づきますと、6 バースではやや厳しい、かなり厳しくなってくると思っております。そうしますと、反対にバースが少ないことによって、減便せざるを得ないと、またご不便をおかけするということになっていけませんので、それが懸念と思っております。安全性や利便性、運用面、将来の自動運転等を考えた場合、乗合バスの形状は、可能な限り、地

下送迎場の通路まで、東西いっぱいに広げていただいて、+αは2バース以上をお願いできれば助かりますというのが我々のお願いでございます。それから、安全性の観点や駅前の交差点のコンパクトの観点から、バス乗降場に隣接する東西の横断歩道、南側は良いが、北側の横断歩道、バス乗降場の南西部分の南北への横断歩道の配置については、本当にこれで大丈夫なのか、安全性は大丈夫なのか、交通の障害は発生しないのか、慎重に考えるべきだと思います。それから、北口の貸し切りバスについては、一般駐車場をもう少し西へ広げることによって、観光バスをもう1台～2台、停められるようにしていただければどうかと思っております。それから当然のことながら、渋滞が起こらないように、貸切りバスは予約制、それから停車時間の管理、それから一般車の停車時間、それから降車、乗車のルールを作って、厳確な運用をお願いしたいと思います。それから、広場の価値を高めるためには、東西の分断を最小限に抑え、JRと三之丸町、伏見町、周辺商店街が一体となって発展するのが理想的でございます。伏見町方面については、それなりにスムーズな歩行者動線が確保されるようになっておりますが、NEWCASPAの前の歩行者動線が途切れることがないようなレイアウトにしていいただければ、より良いと思っております。広場の活用方法や運営方法と合わせて、今後の検討課題に付け加えていただければ助かります。最後に申し上げますが、これからは免許返納の高齢者、それから病院学校の統廃合、スーパー小売店の減少等によって、生活の足の確保はますます重要になってきております。福山市民の多くの皆様が、マイカーに頼っている現状は如何でしょうか。国も相当危機感を持っておりまして、交通空白の解消、官民連携プラットフォーム、それから運転手確保対策、自動運転レベル4早期実現等々、様々な施策を打っておりますが、やっぱり市民がそれぞれ将来を考えて、社会インフラとして、公共交通をいかに残して、発展させていくかという問題意識を持って、公共交通を考えていただきたいです。

●福山駅周辺再生推進部長

この計画につきましては、先ほど申し上げたとおり、前回の協議会でのご議論を踏まえ、これをベースに基本計画を取りまとめています。その中で、バス利用の促進は市の施策として組織を設けて取り組んでいるところです。バス事業者の皆さまにもご協力いただいております。今後も官民が連携してしっかりと進めていきたいと考えています。そのあたりはバス事業者の方にもご協力いただきたいと思っております。また、先ほどからご意見のある三之丸町や駅前広場の活性化は、バス事業者や利用促進の観点からも非常に重要であると認識しています。こうした点についても、バス事業者の皆さまにはご理解をいただいているところであり、今後の駅前広場の利活用にあたっては、引き続きご協力をお願いできればと考えています。

横断歩道の位置など、交通施設に関するご心配の声もいただいております。今後、実施設計を進めるにあたっては、警察との協議が不可欠であり、現在の計画も道路基準に基づき、安全性を確保した設計を進めています。実施設計の段階でも、基準に照らして改めて

確認を行いながら、交通事業者の皆さまとの調整も進めてまいりますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

それから東西方向の分断の話もございました。東西だけでなく南方面へも含めて動線をしっかり確保していきたいと思っておりますし、そのためにはそれぞれ周辺の事業も必要かと思っております。特に三之丸につきましては、NEWCASPA 前の歩道周辺の使い方、こういったことも事業者の方とも連携しながら進めております。福山駅前広場を活用した時に、道路は間に入りますが、その向こうで何か行われているというような雰囲気づくり、見え方によっても、人の行動が変わってくると思っております。それに合わせた道路の設計も必要と思っております。そのあたり、連携して進めていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

それから、北口に関するご指摘もいただきました。運用ルールの整備については、先日の市民説明会でも参加者の方から必要性をご意見として頂戴しています。施設は「作って終わり」ではなく、整備した以上、どのように運用し、どのようなルールで活用していくのかを明確にし、そのルールに基づいて適切に使っていただくことが重要です。十分に機能を発揮させるためにも、運用ルールの策定は欠かせないと考えています。設計はもちろんですが、あわせて運用面のルールづくりが非常に大切だと認識していますので、その点についても、交通事業者の皆さまには引き続きご協力をお願いできればと思っております。

●三谷繭子

ご説明ありがとうございました。皆さんも言われていますが、これまでの議論の内容をしっかり入れ込んでいただいて、ものすごく良いものになっているんじゃないかと個人的には感じております。完成まで7年という話があったんですが、小学校に入学して7年経つと中学校1年生になるほどの長さなので、まさに青春をここで過ごせるような広場になればいいなと感じています。結構先のことだなんて今まで思っていたんですが、7年もすぐだろうなと改めて感じて、良い形で進んでいけばなというふうに思っております。

市民説明会に参加した際、さまざまな思いや不安を抱えている方がいらっしゃる一方で、全体としてはこの取り組みを応援してくださっている方も多いのではないかと感じました。また、不安を口にされていた方々も、福山のまちを大切に思うからこそ率直に意見を述べてくださっているのだと思います。今後、設計が進んでいく段階では、情報公開を丁寧に行い、市民の皆さんにより深く理解していただけるような取り組みを進めていくことが重要だと考えています。追加で、参加されていた方々の年齢層は比較的高めだったように感じました。一方で、高校生や大学生といった若い世代も来て発言してくれていましたが、これから広場を実際に使う未来の若い世代に対しては、まだ十分に周知が行き届いていない面もあると感じています。今後、設計が進むにつれて公開できる情報とできない情報が出てくるとは思いますが、若い方々がより身近に「これからできる広場」を感じら

れるよう、工夫を凝らした取り組みが必要ではないかと、説明会を通じて感じたところです。

基本計画の位置づけについてですが、この計画は「駅前広場の役割と機能を整理し、機能配置計画を定めるもの」と明記されており、まずは機能配置を定める段階であるという点は明確だと理解しています。そのうえで、今後の空間デザインや周辺の活用ルールなど、ソフト・ハード両面の具体的な内容については、これから検討が進むと記載されています。一方で、基本計画のスケジュール（21頁）は、ややざっくりしている印象を受けました。今後、設計や管理運営の計画をどのような形で進め、市としてどの程度方針を定めたいかで運営者を公募していくのかといった流れが、もう少し示されていると理解が深まるのではないかと感じています。また、広場の工事期間もおそらく3年程度を想定されているのだと思いますが、一般の市民の方が見た際に、完成までの全体像がイメージしづらい部分があるように思いました。市民が将来像を描きやすいよう、スケジュールや進め方をより分かりやすく示していただけると、理解や期待につながるのではないかと考えています。

●株式会社築切家守舎

この基本計画については、これまでの議論や市民の皆さまからの意見を丁寧に取り入れられた、非常に良い内容になっていると感じています。9頁に示されている「交通結節機能」と「都市の広場機能」についても、この基本計画の中でしっかりと位置づけられていると思います。特に交通結節機能については、前回は申し上げましたが、かなり重点を置いて検討された計画であり、非常によく練られたものだと評価しています。この方向性で進めていただきたいと考えています。

先ほどバス事業者の方からもご意見がありましたが、必要に応じて追加の機能が求められる場合には、広場内だけでなく、広場以外の場所に整備することも選択肢として検討できるのではないかと考えました。可能であれば、そうした柔軟な対応も視野に入れていただけると良いのではないかと感じています。

交通結節機能についてですが、昨日、商工会議所の都市問題・中心市街地活性化委員会に出席し、今日と同様のご説明をいただきました。委員として参加していた経済界の皆さまからは、「非常に良い計画になった」という評価が多く寄せられ、特に交通結節機能については高い賛同が得られていました。経済界からも認められた計画であることを踏まえ、この方向で進めていただきたいと考えています。今後、細かな点については修正が加えられていくと思いますが、その中で一つ気になった点を申し上げます。昨日の議論でも、11頁にあるタクシー降車場の位置について「ここで良いのか」という意見が出ました。その際、「一般車両もここに停めるのではないか」という指摘がありましたが、私は一般車両は地下駐車場を利用すればいいのではないかと考えています。しかし、「いや、ここに停める人が必ず出てくる」という声もあり、何らかの対策を求める意見にまとり

ました。私は、計画そのものを歪めて一般車両の違反駐車を前提に場所を変えるのではなく、むしろ違反車両を取り締まるなど、計画を阻害しないための運用面での対応を強化すべきだと考えています。せっかく練り上げられた計画ですので、適切なルールと運用によって、計画通りの機能が発揮できるようにしていくことが重要だと思います。

一昨日の市民説明会でも、伏見町北側の送迎場について「長時間停車する車が多くなると交通が阻害されるのではないか」という意見が出ていました。こうした心配が生まれるのは当然だと思いますし、実際にそのような状況が起きれば大きな問題になります。ただ、逆に言えば、長時間停車する車を前提に計画を変えるのではなく、そうした行為を発生させない仕組みづくりが重要だと感じています。具体的には、違反やマナーの悪い駐車を抑止し、必要に応じて取り締まりを行うことで、計画が本来想定している交通の流れを守ることができます。すべての懸念を計画段階に盛り込もうとすると、計画そのものが複雑になり、かえって本来の目的が見えにくくなります。そのため、計画は計画として、必要な機能と配置を明確に定めること。運用段階では、違反車両を入れさせない・停めさせないための仕組みを整えること。この二つをしっかりと分けて考えることが大切だと思います。広場の機能を最大限に発揮させるためにも、計画を歪めるのではなく、運用面での工夫や取り締まりによって秩序を保つ方向で検討していただければと感じました。

9頁にある天秤の図についてですが、私の印象としては、現状では左側の交通結節機能に比重が置かれている計画になっていると感じています。交通結節機能については非常に優れた内容であり、高く評価していますが、一方で右側の「都市の広場機能」については、今後さらに深めていく余地があるのではないかと考えています。広場としての魅力や使われ方、空間の質を高めるための検討を、今後の段階でより充実させていただきたいと考えています。この点は22頁の管理運営スキームにも関係しますが、広場をどのように育てていくかを考えるうえで、広場管理運営者の役割が非常に重要になります。計画では「共に作り上げていく」という趣旨が示されていますが、では具体的に、管理運営者がどの範囲を担当するのか（広場のみなのか、国道まで含むのか、さらに広い範囲なのか）、どのような機能や業務を担うのか、どの段階で選定し、どの段階から関わるのかといった点を、できるだけ早い段階で明確に示していただくことが重要だと感じています。先ほどの議論にもありましたが、スケジュールが大まかすぎるため、管理運営者の選定期間や関わり方が見えにくい状況です。これらをスケジュールに組み込み、より具体的に示していただければ、市民や周辺地域の方々、さらには関心を持つ事業者にとってもイメージが湧きやすくなると思います。実際、伏見町では月に1回の会合を開きながら広場への関心を高めている方も多く、関わりたいという声もあります。こうした市民や事業者が参加しやすくなるよう、管理運営の枠組みやスケジュールを早めに提示していただくことが、広場づくりの質を高めるうえでも有効だと感じました。

● 広島県タクシー協会東部支部

タクシーに関する多くのご議論をいただき、ありがとうございます。タクシープールについては、現在の待機場・降車場・乗降場がすべて無くなり、別の場所へ移ることになるため、利用者にとっては不便が生じる可能性があると感じています。そのため、移転にあたっては、タクシープールの終わり方や移行の仕方について、利用者の声を丁寧に聞きながら議論を進めていただきたいと思います。

計画書の 6-3 (23 頁) にも示されているように、今後も関係者と協議を重ねながら進めていくことが重要です。タクシー事業者だけでなく、市民や利用者の意見も共有し、協議の場で再度整理していただければ、より良い形で移行が進むのではないかと考えています。

●西村浩

一旦この基本計画がまとまって、これからもっと詳細な設計に入っていくと思うのですが、やっぱり日本もそうですけど、世界も含めて、あらゆる都市が「人」優先の街にしていこうというのを実践して行ってます。人を優先の都市にやっぱり若者たちも集まっています。人が集まらない限り公共交通の利用率も上がらないわけですから、バス会社さん、タクシー会社さん、公共交通を運営されている方々のおっしゃることはよく分かるのですが、そのバランスをきちんと考えながら、タクシー会社さんやバス会社さんにも一方で人を集めるための努力を是非していただきたいなと思います。安全に安心して暮らせる歩ける駅前なり街中っていうものがなければ、やっぱり世代も超えて幅広い世代が集まるという都市にはなりえないと思いますので、その辺をよく考えながら、今後の検討をしていただきたいなというふうに思っています。

もう一つ、一番大事なのは、今後についてのところがすごく大事だと思っています。先ほどから出ているスケジュールと運営の話になります。運営について (22 頁)、広場工事前に管理運営者を募集するなどって書いてあるのですが、これだと遅いと思います。一方で指定管理なので、広場の仕様が決まらなないと指定管理の仕様が決まらなという矛盾も実はあります。その点はよくわかるんですけど、できれば設計に伴奏できる運営者がいた方がいいと思います。なので、例えばこの文章を広場設計に伴奏できるように管理運営候補者を募集する、などのような書き方で、もうちょっと前倒して候補者が決まる、それで最終的に仕様が決まった後に、管理運営者が決まるみたいな、2 段階のプロセスをできるようにぜひ検討していただきたい。もし可能であれば、ここにそういう文言も加えていただきたいなというふうに思います。その時に、この 21 頁のスケジュールについて、今の段階でざっくりしているっていうのは、細かいことが決まってないので、なかなか書けないのかもしれませんが、この設計と工事に加えて、運営っていうバーを入れてほしいなと思います。先ほど藤本さんから話があったように、どの辺で運営者を決めるのか。設計に伴奏して、運営候補者がいろいろ意見を出しながら設計を進めていって、広場が工事に入ったら運営者が決まって、最後オープンしたら運用していくっていうバーができればこの中

に加えていただけるとすごくありがたいなというふうに思います。近年の状況として、ハードを作ってから運営を決めるという時代ではなくて、先に活用・運営する人が決まっています、その人たちの意見を踏まえながら設計をするという時代になってますから、できるだけ早く運営の候補者が設計にも参加できるような進め方をぜひ検討していただきたいなというふうに思います。以上です。

●清水座長

今のところ非常に大事なところだと思いますので、もし加筆訂正できるのであれば、西村委員の意見のようなことを書いていただければと僕も思います。

●渡邊一成

機能配置計画を定めた基本計画としては非常に良くできているというふうに思います。今日求められているのは、記載内容に対する指摘ということなので、細かい点も含めて7点ほどお話しします。

まず1点目は表紙についてです。17頁以降にもあるとおり、この図はイメージ図ですので、その旨の注釈を表紙にも明記すべきだと考えます。そうしないと、この図だけが一人歩きしてしまうおそれがあります。また、この表紙の季節設定が不明瞭に感じられました。おそらく初夏を想定されているのだと思いますが、中間服の女子学生がいる一方でノースリーブの女性やジャケットを着た男性も描かれており、季節感がややちぐはぐな印象です。その点については、季節設定を整理したうえで精査していただきたい、というのが1点目です。

次に2点目ですが、6頁の三重丸の図についてです。ここは非常に重要な部分だと考えています。結論から申し上げますと、私は四重丸として整理する方が適切ではないかと思っています。現在の図では、中心に駅前広場があり、その外側に「周辺市街地」と記されていますが、この「周辺市街地」がどの範囲を指すのかが明確ではありません。ウォークアブルエリアから図書館周辺までを想定しているのか、あるいは神辺・沼隈・松永・新市といった広域の周辺市街地を含むのか、解釈に幅があり、定義が曖昧に感じられます。私のイメージとしては、まず中心に駅前広場があり、その外側に位置する「周辺市街地」は、新しい体育館や、今後整備されるまちづくり拠点周辺までを含むエリアとして整理するのが自然ではないかと考えています。その外側に、神辺・沼隈・松永・新市など福山市が現在力を入れている地域拠点が位置づけられ、さらにその外側に備後圏域が広がるという四層構造が、福山市全体の都市構造をよりの確に表現できるのではないかと思います。こうした階層構造を明確にすることで、駅前広場の役割や周辺市街地との関係、さらには地域拠点や広域圏とのつながりが整理され、計画の位置づけがよりわかりやすくなると感じています。ご検討いただければと思います。

8頁についてですが、空間形成の基本的な考え方として6つ整理されている点は、おそ

らく7頁に示されている「駅前広場の5つの機能」を踏まえて構成されているのだろうと思います。ただ、そのつながりが直感的に理解しづらい印象がありました。7頁の5つの機能（交通結節機能からサービス機能まで）が、どのように8頁の6つの基本的な考え方へと展開されているのかが、読み手にとってはやや分かりにくい構成になっているように感じます。むしろ、2頁で示されている「基本方針」「駅前広場の問題点」「解決の方向性」のように、段階的に整理されている部分は非常に理解しやすく、論理の流れも明確でした。それに比べると、7頁と8頁の関係性が少し飛んでいるように見え、内容としては間違っていないし盛り込まれているものの、構造的なつながりがもう一步整理されるとより納得感が高まるのではないかと感じました。そのような印象を持ったという点をお伝えしたいと思います。

11頁の整備図についてですが、図そのものに問題はないものの、駐輪場の扱いがどう整理されているのかが少し分かりにくいと感じました。伏見町付近には新たに地下駐輪場を整備する構想がありますし、現在NEWCASPA北側にある地下駐輪場を今後どうするか、また駅北側の駐輪場は新たに設けないのかといった点が整理されていないように思います。全体として駐輪場の位置づけや計画を一度まとめて示していただく必要があるのではないかと感じました。

次に、21頁のスケジュールについてですが、三谷さんや西村さんからも指摘があったように、現状のままでは少し不十分ではないかと思いました。24頁には「これからの進め方の枠組み」が示され、市民の方々と議論しながら進めると書かれていますが、21頁のスケジュールにはそのプロセスが反映されていません。設計段階や工事段階はあくまで技術的な工程であり、それとは別に、市民との意見交換や説明の機会をどのタイミングで設けるのかを明示することが必要だと思います。スケジュールに市民との対話のプロセスが示されていないと、「一気に作られてしまうのではないか」という印象を与えかねません。設計や工事を進めるにあたって、市民と意見交換をしながら進めていくという姿勢を、スケジュール上でもしっかり示すべきだと感じました。

23頁についてですが、6-3「交通施設に関する検討」の2つ目にある「福山駅前交差点から宝町（西）交差点までの間については、交通車両の円滑化が見込まれるため、本計画と併せて整備を検討します」という表現は、少し意味が取りづらい印象があります。「円滑化が見込まれる」という言葉が良く分からなくて、むしろ、「交通の円滑化が求められるため整備を検討します」なのかなと思っています。この部分は表現の整理を検討していただく方が良いと感じました。

最後に、40頁について一点申し上げます。管理協定区域図が南口のみ記載されていますが、北口については記載しなくてよいのかが気になりました。「北口は交通広場のみであるから記載しなくてもよい」ということであれば全然良いのですが、現状では南口だけが示されているため、北口が置き去りにされているようにも見えました。この点について、記載の可否を含めてご検討いただければと思います。以上、多くなりましたが、7点

が今回の気づきとなります。

●清水座長

今の渡邊先生のご指摘、もっともなものが多いのでご検討をお願いしたいと思います。

●福山駅周辺再生推進部長

ご指摘ありがとうございます。

1点目の表紙についてや2点目の「周辺市街地」の範囲についてですが、周辺市街地についてはウォークアブルエリア周辺をイメージしています。さらにその外側に市域、そして備後圏域といった広がりを持つ地域が続くという整理です。これらの表現については、意図がより正確に伝わるよう、改めて検討し、必要に応じて表現の見直しを行いたいと考えています。

それから、7頁から8頁にかけてのつながりについてです。この部分は整理の仕方として、まず7頁では駅前広場の機能を示しており、交通結節機能を1つ、そして広場機能を4つに分類しています。これは国の指針や手引きに沿って、駅前広場の機能を5つに整理したものです。そのうち、交通結節機能を除く4つの広場機能については、これまでの議論の中で「大切に考える考え方」を6つの項目として整理してきました。8頁では、その6つの考え方に沿って内容をまとめています。7頁の4つの広場機能と、8頁の「大切に考える考え方」の関係が分かりにくいという点のご指摘だと思います。タイトル下にも「役割と機能を踏まえ、大切に考える基本的な考え方を整理」と記載していますが、両者のつながりがより明確になるよう、7頁から8頁へとリンクする部分を強調するなど、表現の工夫を検討したいと考えています。

次に、スケジュールの部分についてです。先ほどご意見をいただいたとおり、運営に関するスケジュールのバーを設けることも検討しましたが、現時点では不確定な要素が多かったため、6-2、6-3、6-4の箇所で、運営に関する考え方を文章で補足する形をとったつもりでしたが、分かりにくい部分があったかと思います。ご指摘はその点に関するものと受け止めていますので、スケジュールと運営面の説明がより明確に伝わるよう、改めて整理を行いたいと考えています。

それから23頁に見込まれるという表現、この辺りは改めて少し精査が必要かと思いません。

最後に、管理区分についてです。北口につきましては、今回は最低限の整備にとどめていること、また今後は南口の運営も含めて必要となる事項が出てくることから、JRさんとの役割分担を明確にしておく必要があると考えています。そのため、参考として管理区分図を付けさせていただいております。この点については、こうした趣旨でご理解いただければと思います。以上、よろしく願いいたします。

●UR 都市機構

こうしたまちづくりは、大きい観点から順番に個別具体なところに段階的に進め方になります。今日のご説明でも、最初は方針や構想があり、そこから計画（11頁の内容）がまとめられ、今後は詳細化に進むという流れが示されました。交通機能については、詳細化を進めないと課題が見えてこないのも、まさに「方針→構想→計画→詳細化」というプロセスが必要になります。一方で、「人間のための広場」（青色部分）については、そもそものような広場にするのか、市民とどう一緒に作り、どう楽しく使っていくのか、そしてそのためにどのような専門家や管理体制が必要なのか、といった議論が求められるというご意見がありました。この点は、単に詳細化の段階に進むというよりも、「人間のための広場」に限っては、いったん方針や構想の段階に立ち返って考えるべきではないか、という趣旨の議論として受け止めました。一度、広場についての議論をしっかりと行い、いわば「広場の哲学」といえる骨太な方向性を固めたうえで、「この方針で広場をつくっていく」という共通認識を持つことが重要だと感じました。そのうえで、遠回りに見えるかもしれませんが、広場の計画部分については、改めて具体化のプロセスに戻る必要がある、というご意見として受け止めました。交通機能の詳細化は、進めることで課題が見えてくる性質のものですが、広場については同じペースで詳細化を進めるべきではない、というのが今日皆さんがおっしゃっていた趣旨だと思います。また、広場の方針や構想を練り直すのであれば、その検討範囲ももう少し広げて考える必要があると感じました。

今日の説明では、広場の楽しい風景がいくつも示されましたが、例えばイベント開催時に北側広場を第二会場として活用すれば、人の流れや子どもたちの動きが自然と北側へ広がり、目の前のお城へ足を運ぶきっかけにもなるはずです。そう考えると、広場とJR駅構内、そして北側エリアをどうつなぐのか、また左右方向についても、ゴッサム通りや三之丸通りをどのように扱うのかといった、より広域的な視点での検討が必要と感じます。したがって、広場の詳細化をこのまま直線的に進めるのではなく、一度立ち戻って方針・構想をまとめ直すのであれば、広場空間をより広い範囲で捉え直すことが重要だと考えました。

●福山駅周辺再生推進部長

広場空間の部分（青色部分）については、一度、方針や構想の段階に立ち返るべきだというご意見だと思います。また、その検討範囲をもう少し広げる必要があるという点も、まさにそのとおりだと感じています。その際の拠り所となる考え方については、これまでの議論の中で十分に積み重ねられてきたものがあると認識しています。そこで、これまでの議論を一度整理し、今後の検討にしっかりと活かせるようにまとめたものが、8頁の「広場空間・空間形成の基本的な考え方」です。ここでは、今後広場空間を具体化していくう

えで大切にすべき視点を、これまでの議論を網羅する形で整理しています。例えば、先ほどご指摘のあった「周辺エリアも含めて考えるべき」という点については、8頁の(1)に示しているとおり、広場単体ではなく、周辺とのつながりや連続性を意識し、広場から周辺へと広がる空間づくりを重視するという考え方として位置づけています。こうした基本的な考え方を踏まえたうえで、今後は22頁・23頁に示した内容を議論や設計のベースとしていきたいと考えています。設計にあたっては専門家の力を借りる部分もありますし、市民の皆さんのご意見を伺う場面も必要になると思います。これらの議論の基盤として、今回整理した考え方を活かしていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

●清水座長

その他に発言したい方などかいらっしゃいますか。大丈夫ですか。それでは皆さんお疲れ様でした。今年度の議論及び意見聴取ここまでとさせていただきます。どうも本当にありがとうございました。これでこの計画がさらに次のステージへ進んでいき、そして7年後の完成目指してですね、福山市民も本当に愛され続ける素晴らしい広場が誕生することを願っています。どうもありがとうございました。

●事務局

ありがとうございました。それではこれより閉会に入りたいと思います。閉会にあたりまして、企画財政局参事の中津からご挨拶させていただきます。

●企画財政局参事

本日は非常に活発なご議論をいただきまして、誠にありがとうございます。本日まで15回にわたって議論を重ねてまいりましたことを踏まえまして、今日ここで福山駅前広場基本計画案をお示しできましたことを、そして皆さんに大卒をご了承いただいた上で、様々なご助言をさらにいただいたこと、こういったことに改めて感謝を申し上げたいと思います。今後につきましては、本日の議論にもありましたが、今日の議論、今日の協議会でのご意見、そして今後予定されております市議会でのご意見、そしてパブリックコメントでのご意見、こういったものを踏まえまして、必要に応じて修正をしてまいりたいというふうに思っております。こうした手続きを経まして、基本計画につきましては、2026年度と来年度になりますが、できるだけ早い段階で基本計画として取りまとめてまいりたいというふうに思っております。また、これも本日の議論でもありましたけれど、広場の活用であるとか運営などについては、今後も皆さんの意見をお聞きしていかないといけないというふうに思っております。引き続き皆様のお力添えをいただくことをお願い申し上げまして閉会のご挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

●事務局

ありがとうございました。それではこれもちまして、第15回福山駅前広場協議会を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。

以上